

「私たちと共に住む・Part 1」

この一年半、約束の地と荒野について学んできました。

私達の目的は荒野に留まる事ではありません。イスラエルの人々はエジプトから出されて40年間荒野をさ迷いました。そこはゴールではなく、約束の地に入らなければなりませんでした。もちろんエジプトに戻ることでありませんでした。

ここから私達も学ぶ事ができます。クリスチャンの信仰生活は、この世で何とか生き延びて、死後に天国に入る事ではありません。

この学びに入る前に、一つの質問をしたいと思います。神様は何のために我々を造られ、私たちの人生にどのような目的を持っておられるのでしょうか？ 神様の思い、御心とは何でしょうか？ 私達が人生に目的を持つ上で、この質問はとても重要です。

では、黙示録21章3節を見ましょう。そこに答えがあります。

黙示録 21:3 また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、「見よ。神の幕屋が人々とともにある。神は彼らとともに住み、彼らは神の民となる。神ご自身が彼らとともにおられる。

ここから、人が造られた理由は、「神が人々とともに住まわれるため」だという事が分かります。それは言い換えるならば、神と人との関係で、「関係性を持つ」という事です。

レビ記 26章 3～13節 を読みましょう。

レビ記 26:3～13

26:3 もし、あなたがたがわたしのおきてに従って歩み、わたしの命令を守り、それらを行うなら、

26:4 わたしはその季節にしたがってあなたがたに雨を与え、地は産物を出し、畑の木々はその実を結び、

26:5 あなたがたの麦打ちは、ぶどうの取り入れ時まで続き、ぶどうの取り入れ時は、種蒔きの時まで続く。あなたがたは満ち足りるまでパンを食べ、安らかにあなたがたの地に住む。

26:6 わたしはまたその地に平和を与える。あなたがたはだれにも悩まされずに寝る。わたしはまた悪い獣をその国から除く。剣があなたがたの国を通り過ぎることはない。

26:7 あなたがたは敵を追いかけ、彼らはあなたがたの前に剣によって倒れる。

26:8 あなたがたの五人は百人を追いかけ、あなたがたの百人は万人を追いかけ、あなたがたの敵はあなたがたの前に剣によって倒れる。

26:9 わたしは、あなたがたを顧み、多くの子どもを与え、あなたがたをふやし、あなたがたとのわたしの契約を確かなものにする。

26:10 あなたがたは長たくわえられた古いものを食べ、新しいものを前にして、古いものを運び出す。

26:11 わたしはあなたがたの間にわたしの住まいを建てよう。わたしはあなたがたを忌みきらわない。

26:12 わたしはあなたがたの間を歩もう。わたしはあなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民となる。

26:13 わたしはあなたがたを、奴隷の身分から救い出すためにエジプトの地から連れ出したあなたがたの神、【主】である。わたしはあなたがたのくびきの横木を打ち砕き、あなたがたをまっすぐに立たせて歩かせた。

特に9節と12節を読むと、旧約聖書の他の箇所を思い出すことができます。どこでしょうか？

9節について、「アブラハム契約」という答えがありました。他には何があるのでしょうか？ 「あなたがたに多くの子どもを与え、あなたがたを増やす」は、どこに書かれていますか？ 答は創世記です。神はアダムとイブに「生めよ。ふえよ。地を満たせ」と言われました。

そして12節の「わたしはあなたの方の間を歩もう」ですが、創世記3章では、神はエデンの園に来て歩いておられました。

先程、なぜ神が人を創造したかという質問をしましたが、答えは黙示録21章3節にありました。それは、人と神が共に歩むためです。聖書にはパターンと思われる箇所が多くあります。

アダムとエバは「善悪を知る知識の木」の実を食べ、エデンの園から追放されてしまいましたが、神様は人を再びエデンに戻そうとして下さいました。神と人が共に住める状態に関係を改善し修復しようと計画されたのです。レビ記の26章からその一例を見ました。

そこでレビ記26章9節から26章3節までを遡りながら読み、それを創世記1章28節から2章2節までと対比させて見ていきます。

その前に、もう一度レビ記26章3節を見ます。

26:3 もし、あなたがたがわたしのおきてに従って歩み、わたしの命令を守り、それらを行うなら、

わたしの“命令”とはどの命令、どの掟のことを話しているのでしょうか？ 律法には613の命令がありますが、全部のことを言っているのでしょうか？ 答えは1章前のレビ記25章に書かれています。

レビ記 25 章 2 節

「イスラエル人に告げて言え。わたしが与えようとしている地にあなたがたが入ったとき、その地は【主】の安息を守らなければならない。

これは一週間における安息日について語っているのではなく、7年ごとの安息年を指しています。このためイスラエル民族は、7年目にはその土地の産物を収穫してはなりません。6年間畑を耕し、7年目はその土地を休ませました。

レビ記 25 章 8～12 節

25:8 あなたは、安息の年を七たび、つまり、七年の七倍を数える。安息の年の七たびは四十九年である。

25:9 あなたはその第七月の十日に角笛を鳴り響かせなければならない。贖罪の日に、あなたがたの全土に角笛を鳴り響かせなければならない。

25:10 あなたがたは第五十年目を聖別し、国中のすべての住民に解放を宣言する。これはあなたがたのヨベルの年である。あなたがたはそれぞれ自分の所有地に帰り、それぞれ自分の家族のもとに帰らなければならない。

25:11 この第五十年目は、あなたがたのヨベルの年である。種を蒔いてはならないし、落ち穂から生えたものを刈り入れてもならない。また手入れをしなかったぶどうの木の実を集めてはならない。

25:12 これはヨベルの年であって、あなたがたには聖である。あなたがたは畑の収穫物を食べなければならない。

7年目ごとに安息年がありますが、50年目はヨベルの年なので、49年目と50年目は2年続けての安息年となり、作物を育ててはなりません。自然に生えてきたものを食べても良かったのですが、所有者が商売をしてはいけません。貧しい人が来て取って食べても良いのですが、所有者はそれを妨げてはいけません。所有者が自分で種を蒔き、育て、借り入れることはできませんでした。

この箇所から、レビ記 26 章 3 節 「もし、あなたがたがわたしのおきてに従って歩み、わたしの命令を守り、それらを行うなら」につながっていきます。

では、レビ記 26 章 9 節 を読み、創世記との類似性を見ていきます。

レビ記 26:9 わたしは、あなたがたを顧み、多くの子どもを与え、あなたがたをふやし、あなたがたのわたしの契約を確かなものにする。

この章は祝福と呪いについて書かれており、恵みの時とさばきが起こる時、神はいつもこの箇所を引用されます。ノアの洪水後にも、神はノアに向かって「生めよ、増えよ、地を満たせ」と、この箇所と同じ事が言われました。これが神のご意思であり、神は、神の民が神の支配にあって地を支配し、この地を満たしてほしいと願われています。この箇所は創世記 1 章 28 節と一致しています。

創世記 1:28 神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ。」

この前半部の「産めよ、増えよ、地を満たせよ」ということの意味は良く分かります。後半部の「地を従えよ」は、「支配せよ」という意味ですが、「屈服させよ」と捉えることも出来ます。アダムとエバは、敵もいないのに何を支配し、征服するのでしょうか？

これは、「悪いものに自分を支配させない」という意味です。例えば、神はカインに向かって「罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。あなたはそれを治めるべきである」と忠告されました。

レビ記に戻り、26 章 7 節と 8 節を見ます。

26:7 あなたがたは敵を追いかけ、彼らはあなたがたの前に剣によって倒れる。

26:8 あなたがたの五人は百人を追いかけ、あなたがたの百人は万人を追いかけ、あなたがたの敵はあなたがたの前に剣によって倒れる。

ですから、レビ記 26 章 9 節は「産めよ、増えよ」にあたり、7 節 8 節は、「敵を支配せよ、征服せよ」という内容になっています。

レビ記 26 章 6 節後半を見ます。

26:6 わたしはまたその地に平和を与える。あなたがたはだれにも悩まされずに寝る。わたしはまた悪い獣をその国から除く。剣があなたがたの国を通り過ぎることはない。

6 節のキーワードは、「わたしは悪い獣をその国から除く」です。これは創世記 1 章 28 節の後半部「海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ」にあたります。

レビ記 26 章 5 節に戻ります。

26:5 あなたがたの麦打ちは、ぶどうの取り入れ時まで続き、ぶどうの取り入れ時は、種蒔きの時まで続く。あなたがたは満ち足りるまでパンを食べ、安らかにあなたがたの地に住む。

これは創世記 1 章 29 節と一致します。

創世記 1:29 神は仰せられた。「見よ。わたしは、全地の上であって、種を持つすべての草と、種を持って実を結ぶすべての木をあなたがたに与える。」

このように対比することができます。創世期 1 章とレビ記 26 章はこのように一致することがわかります。

レビ記 26 章 4 節

26:4 わたしはその季節にしたがってあなたがたに雨を与え、地は産物を出し、畑の木々はその実を結び、

これは創世記 1 章 29 節の後半に当たります。

創世記 1:29 種を持って実を結ぶすべての木をあなたがたに与える。それがあなたがたの食物となる。

このように対比できることが分かります。

レビ記 26:3 もし、あなたがたがわたしのおきてに従って歩み、わたしの命令を守り、それらを行うなら、

先程、神の戒め、おきては安息についてであったことを学びました。十戒やその他の掟についてではなく、土地を休ませることについて、安息年、ヨベルについてであったことを学びました。創世記 2 章 2 節も安息について書かれています。

創世記 2:2 神は第七日目に、なされていたわざの完成を告げられた。すなわち第七日目に、なされていたすべてのわざを休まれた。

ここでの「休む」は「安息」という意味です。ここにまた対比があります。

では「安息」「休む」にはどんな意味があるのでしょうか？

創世記 2 章で神は、園のどの木からでも取って食べてよいが、一つだけ取って食べてはいけない木があるとされました。なぜ神は、人を殺すことになる木を彼らの前に置いたのでしょうか？ これは大きな疑問です。

エデンの園には何百本という木があったでしょう。アダムとエバは 2-3 歳の子供ではなく、もう大人でした。神は彼らに「エデンの園の所有者は神ご自身である」ことを教えようとされたのです。エデンの園は神に属する地であり、これらの木々は神から与えられた物です。自分たちに権限はないのです。善悪を知る知識の木を見る時、「この木からは食べてはいけない。

これは神に属しているから」と、考えるべきでした。これらは、彼らに与えられた物にすぎなかったのです。

例えば、とても高価なローレックスの時計を子供に与えたとします。子供は放り出したり投げたりするでしょうか？ 本当にその価値を理解し、感謝しているのなら、粗末にはしないとします。

エデンの園はアダムとエバの所有物ではありません。何故なら、罪を犯した後、彼らは追いつめられてしまったからです。食べてはいけない物を食べるとは、「全ての所有権が自分にある」と主張するようなものです。彼らに条件として与えられたのはたった一つだけ、「この木からは食べてはいけない」でした。

同じように、エジプトから連れ出された民にも一つだけ命令がありました。7年に一度の安息年と、50年目の安息年に土地を休ませるという制約が設けられたのです。

神はなぜ、そのような制約を設けられたのでしょうか？ 同じ理由があったと思います。約束の地は神の所有するものだということです。神は人とともに住みたいと願っておられますが、エデンの園と同様に約束の地でも、人が神の領域に住むという状況で制約を設けられたのです。

当時は農業を中心とする社会です。農業ですから収穫に依存します。神が所有される土地なので、神が食物を与えられます。安息年という耕作しない年であっても、食物は神が支配されるものです。イスラエルの民は、神が食物を与えて下さると信頼するべきでした。

民が安息年を契約として守るなら、神は祝福としてこの年にも食物を満たすと約束されたのです。エデンの園と同様に食物は十分ありましたが、神を信頼しないといけないということでした。

レビ記 26 章に戻ります。

レビ記 26:17~20

26:17 わたしは、あなたがたからわたしの顔をそむける。あなたがたは自分の敵に打ち負かされ、あなたがたを憎む者があなたがたを踏みつける。だれも追いかけて来ないのに、あなたがたは逃げる。

26:18 もし、これらのことの後でも、あなたがたがわたしに聞かないなら、わたしはさらに、あなたがたの罪に対して七倍も重く懲らしめる。

26:19 わたしはさらに、あなたがたの力を頼む高慢を打ち砕き、あなたがたの天を鉄のように、あなたがたの地を青銅のようにする。

26:20 あなたがたの力はむだに費やされる。あなたがたの地はその産物を出さず、地の木々もその実を結ばないであろう。

レビ記 26:32~35

26:32 わたしはその地を荒れ果てさせ、そこに住むあなたがたの敵はそこで色を失う。

26:33 わたしはあなたがたを国々の間に散らし、剣を抜いてあなたがたのあとを追おう。あなたがたの地は荒れ果て、あなたがたの町々は廃墟となる。

26:34 その地が荒れ果て、あなたがたが敵の国にいる間、そのとき、その地は休み、その安息の年を取り返す。

26:35 地が荒れ果てている間中、地は、あなたがたがその住まいに住んでいたとき、安息の年に休まなかったその休みを取る。

エデンの園でも土地は神の所有物であり、神に属するものでした。制約を見ると神様を思い出します。

レビ記 26:43

その地は彼らが去って荒れ果てている間、安息の年を取り返すために彼らによって捨てられなければならない。彼らは自分たちの咎の償いをしなければならぬ。実に彼らがわたしの定めを退け、彼らがわたしのおきてを忌みきらったからである。

ここから、なぜ1つの制約が必要だったかが分かります。守らなかった時には追い出されてしまうのです。

ここで安息の意味を考えてみましょう。創世記2章2-3節には安息について書かれています。教会によって安息日が違いますが、それは、安息の意味のとらえ方が違うからです。創世記2章で初めて安息という言葉が出てきました。

創世記2:2 神は第七日目に、なされていたわざの完成を告げられた。すなわち第七日目に、なされていたすべてのわざを休まれた。

ここを読むと何か矛盾しているようにみえます。神は7日目に働かれたのでしょうか、働かれなかったのでしょうか？ 7日目も働かれたように思えます。6日目に創造を終えられ、7日目に完成したという事から、両方の見方ができます。

「安息」とは何でしょうか？ 新約聖書でイエス様が「わたしは安息日の主です」と言われたので、意味を知らなければなりません。なぜ安息が必要だったのでしょうか？ 神は疲れ

たのでしょうか？ 「休む」とはどういう意味でしょうか？

もし自分が何かを作り終えたなら、また何かを修理し終えたなら、休息し、それらを見ながら飲み物を取ったりします。休むとは「その結果を見て楽しむ」ことだと思います。

神がこの世界を造られた時、最後に造られたのがアダムとエバでした。

「休まれた」は、肯定的意味、すなわち「完成したので手を休め、楽しまれた」という状況と、否定的意味で、「もう疲れ果てて何もできない」という状況の二通りに考えることができます。

例えば絵を描いていて、完成したにもかかわらず、さらに絵具を使って描き続けていれば、逆に絵がダメになっていく事があります。しかし、ある程度の所で止めて満足し、楽しむこともあるでしょう。安息には、そのような「満足」という意味があります。

子供を育てる時、親はその子の成長に応じて働き掛け、関わり方を変えながら接します。その子は、成長して対等に話すようになり、親元を離れて自分の生き方を始め、独立していきます。この時、親はその子に関して休息するような満足感を味わうことでしょう。

神も、アダムとエバが成長し、ある程度自立していくことを喜ぶと同時に、神に頼ってほしいとも思われました。一人前に自立した後は、より深い関係を持つことができます。神は、ご自身と被造物とがより深い関係を持つことを望んでおられました。一人前に自立する一方で、神にもっと信頼してほしいとも願われました。

実際、創世記2章では、アダムとエバに「善悪を知る知識の木からは取って食べてはならない」という制約を設けられました。同じように、イスラエルの民に対し、約束の地に入ったなら、7年ごとの安息年と50年目の安息年も取るようにと制約を設けられました。

人は6年間必死に働き続けると、7年目に休めと言われても不安になり、「働かないと食物が得られない」という思いが出てきます。しかし安息年は、人が神と深い信頼関係を持つために設けられたものでした。イエス様は「わたしは安息日の主です」と言われました。イエス様がみわざを成し遂げられたので、すでに安息は始まっています。主により信頼し、安息を楽しんでいられる時だと言えます。日曜日が安息日という概念ではないのです。

旧約聖書の内容は新約聖書の土台となっています。

ヨハネ福音書14章15節にこのように書かれています。

14:15 もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。

レビ記 26 : 3 に、「もし、あなたがたがわたしのおきてに従って歩み、わたしの命令を守り、それらを行うなら」と書かれていますが、イエス様は何を言われているのでしょうか？

旧約聖書から学べることは何でしょうか？

神は人に自由を与えられました。私たちは自立していると同時に、神に依存し、より頼んでいる状態でもあります。旧約聖書では、「わたしを愛しているのなら」とは書かれておらず、「戒めを守るなら」と書かれています。何故かと言うと、神は、罪の性質を持った人間が聖霊なしに神を愛することは出来ないと、ご存知だからです。神は、私たちが神に従うことができる力として、恵みにより聖霊を与えて下さいました。

エゼキエル書 36 : 17, 19, 25 の一部を読みます。

36:17 「人の子よ。イスラエルの家が、自分の土地に住んでいたとき、彼らはその行いとわざとによって、その地を汚した。その行いは、わたしにとっては、さわりのある女のように汚れていた。

36:19 わたしは彼らを諸国の民の間に散らし、彼らを国々に追い散らし、彼らの行いとわざとに応じて彼らをさばいた。

36:25 わたしがきよい水をあなたがたの上に振りかけるそのとき、あなたがたはすべての汚れからきよめられる。わたしはすべての偶像の汚れからあなたがたをきよめ、

神は、人間が神のおきてを守れないことを知っておられました。不信仰に陥っていく罪の性質があることを知っておられました。イスラエル民族は安息年を守っていませんでした。それ故、バビロン捕囚に 70 年間（1 回の安息年を 1 年として）が費やされました。

神は、掟を破った民が捕囚に連れて行かれることを忠告しておられ、それが実際に起こってしまいました。

しかし神は、民を連れ戻し、水で清めることも約束されました。

エゼキエル書 36:26 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。

新約聖書ではここを引用して「新生する」「生まれ変わる」と言います。

ヨハネ福音書 3 章では、イエスのもとに来たニコデモが、新生する事の意味を理解していなかったので叱責されました。彼はラビ中のラビでしたので、イエス様は旧約聖書のこの箇所を引用し、「水と霊によって生まれ変わる」と言われたのです。

エゼキエル書 36:26、27、35、

36:27 わたしの霊をあなたがたのうちに授け、わたしのおきてに従って歩ませ、わたしの定めを守り行わせる。

36:28 あなたがたは、わたしがあなたがたの先祖に与えた地に住み、あなたがたはわたしの民となり、わたしはあなたがたの神となる。

36:35 このとき、人々はこう言おう。『荒れ果てていたこの国は、エデンの園のようになった。廃墟となり、荒れ果て、くつがえされていた町々も城壁が築かれ、人が住むようになった』と。

約束の地とはエデンの園です。実際の物理的な場所を意味するのではなく、霊的な意味で対比しています。約束の地に入るとは、エデンの園に帰るという象徴的意味があります。

神がモーセを遣わしてイスラエルの民を出エジプトさせたのは、荒野の旅を通じて神の神聖さを示すためであり、最終目的は約束の地に入る事でした。

多くのクリスチャンは、エジプトから出て喜んでいるだけです。教会で聖書を学び、いろいろな活動もしていますが、何が救いで何がゴールなのかを理解する事が大切です。最終的には、神との関係性を回復することなのです。

数か所の御言葉から見てきましたが、それらは全て、エデンの園に戻り、神と人との関係を取り戻していく事を教えているのです。